

2021年07月06日（火）【外為Lab】松田哲

タイトル:【早くも「夏休み相場」】

米国の独立記念日（7月4日）を終えて、外国為替市場は、早くも「夏休み相場」に突入した、と考えます。

今年（2021年）の夏は、東京オリンピックの開催を控えて、相対的に静かな展開を想定しています。

新型コロナウイルスの感染拡大が収まりを見せていない中での東京オリンピック開催であり、市場参加者の多くが、どこことなく、相場に集中していない傾向にある、と感じています。

オリンピックの開幕まで、一か月を切っているのに、いまだに観客を入れるのか、無観客にするのか、はっきりしない状態のまま。

そういった状況下で、世界各国の選手が、来日しています。

来日した選手の中には、コロナウイルス検査での陽性者が出るなど、問題点が、改めてクローズアップされています。

今の時点で、問題点が多いままの東京オリンピックですが、いまさら中止にすることはできないのでしょうか・・・。

東京オリンピックの開催中、そして、その終了後に、感染爆発が起こらないことを祈るのみです。

新型コロナウイルスに関しては、徐々に、外国為替市場でのテーマ（材料）にならなくなっている、と考えます。

ワクチンが開発され、徐々に、それが浸透していることが大きな理由でしょう。

しかしながら、この夏の東京オリンピックの時期に、再びテーマ（材料）になる可能性を否定できない、と考えています。

+++++

日本国内では、熱海市で起こった土石流の災害が、大きく報道されています。

ただし、こういった大きな災害でも、外国為替市場でのテーマ（材料）になることはありません。

また、都議会議員の選挙が実施されましたが、この件も、外国為替市場でのテーマ（材料）になることはありません。

念のために、付記しておきます。

+++++

(2021年07月06日東京時間15:25記述)